【ドウシ・テ】

# 道志手帖

Spring 2017　no.15

## gallery　＊　山の神のお供え物

1 月 17 日、山の神にお参り。
スズタケで弓矢をつくり、
竹筒には、御神酒を入れてお供えする。
この一年、山の恵みがありますように。
田畑に豊かな実りがありますように。

# 道 志 手 帖

Spring 2017 no.15

Contents


［特集 1］

帰ってきた十王様　…4

［特集 2］

受け継いできたもの

おたなかざり　…8

小正月のツクリモノ　…10

［連載］

はじめての養蜂③　抱井昌史　…7

どうしの山　山みちマップ③今倉山　石川敬子　…12

協力隊だより⑭　…14

手造り遊び用具④高足のり　仲井義晶　…15

お顔拝見④山口久公さん　仲井義晶　…16

みなもと体験館イベント参加④
バームクーヘンづくり　佐藤八重子　…16

表紙写真

撮影：香西恵（2017.3.8）

昭和 30 年頃の雛人形。道の駅どうしにて、村内外のさまざまな雛人形が 2 月から 4 月上旬まで展示されている。

What's "Doshi-techo"?

**「道志手帖」とは？**

略して「ドウシテ」。「どうしってどんなところ？」という関心から生まれた、道志村地域おこし協力隊を中心とした有志による冊子です。村で生活していて気になったこと、おもしろいなとおもったこと、発見や驚きを、年 4 回報告していきます。2016 年度からは新しい書き手による誌面をお届けします。書き手は常時募集しています。どなたでもお気軽にお問い合わせください。

閻魔王

奪衣婆

特集

# 帰ってきた十王様

## 椿「十王堂」再建

「十王堂」を知っているだろうか。

十王堂は、江戸時代に中国から伝わって来た十王信仰に基づいてつくられた。十王信仰とは、閻魔大王をはじめとする冥界の十の王が、死者の生前の罪について審理し、その結果によって、死者の輪廻先が決められるという考え方である。十王堂には、十体の王の石像に加え、死者の服を脱がせ、服の重さで罪を測るという「奪衣婆（だつえば）」などの石像がまつられている。

かつて村内には、神地と椿の2ヶ所に「十王堂」があったそうだ。『道志七里』によると、神地にはすでに無いが、椿には残っているとして、十王堂の存在が記録されている。

しかし、今日に至るまで椿に十王様は不在の状態が続いていた。というのは、『道志七里』執筆にさいし、著者の伊藤堅吉に資料として石

「子どものころ、お堂の中で遊んだ」「奪衣婆が恐かった」――。
十王堂にはたくさんの思い出が詰まっています（2017.3.25 落慶法要式にて）

遷座式にて（2016.12.25）

像を貸し出したままになっていたからである。

その十王様が、およそ60年ぶりに道志に戻ってきた。石像が所蔵されていた、伊藤堅吉ゆかりの「富士博物館」が取り壊されることになったためだ。平成26年に村に打診があり、３年の準備期間を経て、平成28年12月、ようやく椿の地に無事十王様が帰ってきた。

椿では十王様を迎えるにあたり、所有者の佐藤茂行（しげゆき）さんが自らの手でお堂を再建。また、有志によって「椿十王堂保存会」が結成され、解説札を設置したり記念冊子を制作したりなど、お披露目に向けた準備が進められてきた。昨年12月25日に遷座式がおこなわれ、今年３月25日（※）、関係者を招待して正式なお披露目会が催された。

お堂の周辺には、十王信仰がもとになった伝説のある「公論橋（こうろんばし）」（次頁参照）や、六地蔵などの石造物がまとまって残されている。十王信仰の物語を辿りながら、ゆかりの石造物を訪ねて歩くのも面白い。

帰ってきた十王様とともに、これからこの場所に、どんな歴史が刻まれていくのだろうか。地域の人々の営みを、十王様が見守っている。

（香西恵）



※３番目の王、宋帝王の預修日に合わせて開催。預修とは、生前にあらかじめ自分のために仏事を修して死後の冥福を祈ること。

# 冥界の旅路と十王様の役割

① 秦広王（しんこうおう）
死後 7 日目
殺生の罪を審理

三途の川
奪衣婆が死者の服を脱がせ服の重さで罪の重さを測る

② 初江王（しょこうおう）
死後 14 日目
盗みの罪を審理

③ 宋帝王（そうていおう）
死後 21 日目
性の罪を審理

④ 五官王（ごかんおう）
死後 28 日目
うその罪を審理
業秤で罪の重さを測る

⑤ 閻魔王（えんまおう）
死後 35 日目
生前のおこないをすべて写す浄玻瑠の鏡を持つ
これまでの審理を元に六道の行き先を決める

⑥ 変成王（へんじょうおう）
死後 42 日目
ここからは再審査
六道の場所を決める
赤鬼と青鬼を従える

⑦ 泰山王（たいざんおう）
死後 49 日目
生まれ変わる姿や場所などの条件を決める

六つの鳥居
六道につながっている

〈六道＝輪廻先〉
地獄道
餓鬼道
畜生道
修羅道
人間道
天道

六地蔵
六道の入口に立ち苦しみを救う

遺族の供養によって救われていく
これ以降は救済措置

⑧ 平等王（びょうどうおう）
死後 100 日目
再審

⑨ 都市王（としおう）
死後 1 年後
光明箱を持つ悪人が開けると業火に焼かれる

⑩ 五道転輪王（ごどうてんりんおう）
死後 2 年後
最後の王

特集

道志の伝説

## 公論橋（こうろんばし）

ここは字大椿。道志川の川南に字名の如く椿の散点する静かな集落地に十王堂がある。十王尊像は座高七寸、石像の閻魔大王と九眷族を従え、方堂正面は仏壇の上に一列に並んでデンと端座ましますが、堂宇の前に公論橋とて、幅一尺二寸、長さ三尺の花崗岩を三枚刻み列ね、両端に橋桁を積み上げた石橋が小沢に架けられている。

ここに山路は六つに交叉放射状の小径を岐けていて、地獄極楽に歩む六道の辻道であった。十王堂に時ならぬ客人があり、堂内からは悲しみ訴える声、啼泣おえつにむせぶ声交々洩れ聴える時には、必ず里内に死ぬ人が出るのであった。堂宇の内では地獄の冥官閻魔大王が、九眷族と眼には映ぜねど八方の獄卒、監守、巡羅を従えて懲罰司法の大評定が続けられているのである。

亡者在世中の是否曲直によって地獄に向かう者、極楽に歩を進める者、公論橋の六道に振り分けられて、懲罰司法の審判は公論橋の橋裏に刻み込まれ、大権は終焉を遂げるのであった。

この六道の辻も、その後西北に進む一道が氏神社に通じていたため、神様と仏様が喧嘩をしたり、化物が出て里人を騒がせたので一道を潰して、今は五つの小径が相寄って残されている。この地を訪ねるもの公論橋の橋梁に寛保三年九月吉日の刻字が読めるであろう。

『道志七里』
226頁より抜粋

点線囲み部分が公論橋。今では４道の辻になっている

第3回

# はじめての養蜂

暖かそうな蜂の越冬風景です。

連載

## ミツバチの越冬

ミツバチは他の種類の蜂とは違って、女王蜂と働き蜂が一緒になって冬を越します。

スズメバチは秋にかけて大きな巣を作り集団となりますが、冬を越すのは秋につくられた女王蜂が散らばって、単独で倒木などの場所で冬を越します。

一方、ミツバチは自分たちが貯蔵した蜜をたよりに、一匹の女王蜂と、数千の働き蜂が集団で越冬します。

ミツバチは越冬中、貯蔵した花蜜を使って、筋肉を振るわせ発熱する事によって、巣内の温度を20℃以上に保っています。

そうする事によって、自分たちの生存はもとより、貯蔵している花蜜を凍らないようにしたり、幼虫を育てるための温度を維持していたりします。そのために貯蔵している蜜が不足すると、ミツバチは越冬できなくなってしまいます。

そうならないために今年は、8月から9月にかけて、ミツバチの越冬用に餌をつくり、ミツバチに沢山食べさせました。数の力はすごいもので、ミツバチ達の食欲?には驚かされました。

ミツバチの養蜂では一般的に、花粉と砂糖水の2種類の餌を与えるのですが、砂糖水は3日で一升といった感じでしょうか。3日後にいってみると、奇麗さっぱり何もなくなっているので、蜂の食欲はすごいものだと思いました。

そんなこんなで、10月までに越冬用の蜜を貯めさせ、越冬に入った訳ですが、道志村では10月位にはミツバチが訪花できる花もなくなり、越冬期間も長いので、今年は、以前住んでいた小田原市の梅林に冬の間はお引越しし、春を迎える事にしました。

小田原では、2月に梅の花が咲きますので、蜂の今年の初仕事は、梅の交配になります。3月には道志にまたお引越しし、道志村の木々の蜜を集められたらと思っています。（抱井昌史）

昨年はたくさんの上白糖をミツバチに与えました。

# 受け継いできたもの

その季節になると、毎年繰り返される習慣、手仕事。親から子へ受け継がれてきたその習慣は家によって違います。年の始めにまつわる二つの習慣をご紹介します。（香西恵）

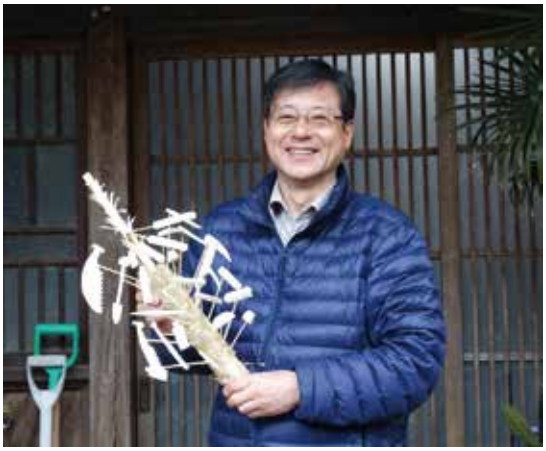
## おたなかざり

新しい年を迎えるために、年の瀬は、やらなければならないことがたくさんある。

神棚や家中の神様の依代を新しくし、お供えをするのもその一つ。馬場の大上家では、「おたなかざり」と呼んでいる棚を鴨居のうえにとりつける。しめ縄を綯い、かたちの良い松を採ってきて、橙やウラジロ、昆布と一緒に飾り、お供えをする。

しめ縄に取り付ける紙垂が一風変わっている。独特のかたちに切り出した大きなものを、縄の中心に一つだけ垂らす。大上家に代々伝わって来たかたちだ。

# 小正月のツクリモノ



鍬や鎌、シャベルに柄杓（ひしゃく）、ノコギリにナタ……。精巧につくられた、木製のさまざまな道具が藁の束に刺してある。

これをつくっているのは、竹之本の佐藤光男（てるお）さん。佐藤家では、この「ツクリモノ」と呼ばれる飾りを小正月につくる習わしがある。飾りには、山仕事の無事や、作物の豊作を願う気持ちが込められている。北端の部屋の角に一年間飾り、どんど焼きで燃やす。これを毎年欠かさずに繰り返して来た。

光男さんの家では、代々山仕事に携わってきた。父・和夫さんは桶職人でもあり、他にも竹でザルや籠、さらに趣味で太鼓や竹箒など、色々なものをつくっていたそうだ。ツクリモノづくりにもこだわりがあり、なんと、耕耘機を模した飾りもつくっていたとか。

和夫さんの仕事場は今では光男さんが工房として使う。光男さんも、お供えをあげるための木製の台など、なんでも手造りする。親から子へ、ものづくりの習慣は受け継がれて来た。

①チョウナやヨキなど山仕事の道具。大きな刃のノコギリは丸太を縦に切るもの／②農作業の道具。右から二番目は「コマンガ」。五寸釘をさしてつくった和夫さんの手造り／③桶に使う板をけずるのに使った手製の道具。丸みのあるカンナやノミ、センなどがたくさん残されている／④俵を土台にしたツクリモノ。藁を束ねているのはスゲの葉。材料は全て身近にある

飾りが模している道具は、実物が手元にあり、現役で使っているものも多い。なかには和夫さんが手造りした道具もある。「実物があるから造りが分かっている」と光男さん。その造りを忠実に真似て飾りをつくる。例えば、ノコギリの歯は、ちゃんと「アサリ」を意識してつくることで、より本物らしくなる。

飾りに使う木材は、カツンボー（ヌルデ）で、山に自生しているものを見繕って伐ってくる。加工がしやすい材質で、白いので仕上がりが美しい。

藁束の上部に飾るのは、粟の花と、穂を模したもの（粟棒）で、豊作の象徴である。『道志七里』によると、昔は小善地から下でも粟穂や稲穂を模した飾りが造られていたらしい。今では、このような飾りをつくる家は、佐藤家のほかにない。

最近では、役目を終えた古い飾りも、燃やさずにとっておくようになったそうだ。藁束の下にカツンボーでつくった俵をとりつけ、机の上に立てて飾れるようにした。

作り手によるこだわりや、新しい工夫が取り入れられながら、代々伝えられてきた「ツクリモノ」。光男さんはこれからも作り続けていくつもりだ。

静岡市と遠志村を結ぶ道坂トンネルの西側から案内に従がい細い道を登ってトンネルの上に出て登山道へ入ります。全体を通して展望はあまりありません。冬枯れの頃は木の間から富士山や周囲の山々

を見ることができます。東峰から西峰にかけての尾根は少し開けています。下山の沢コースは急で足元が不安定な所が多々あり気をつけよう！
沢の中を歩く時はルートがわかりにくいので赤テープをしっかり確認すること。
木の間から今倉山が見える
1310m ピーク
カラマツ
足場の良い道
赤松
ゆるやかな細い尾根
ロープあり
岩の間の急登
林床は笹が密集
今倉山
御正体山
都留市
右の踏み跡には入らない
沢の中を歩く赤テープ注意
トンネルP
(90分)
東峰
(15分)
西峰
(25分)
下り分岐
(80分)
林道
(5分)
ゲート
(10分)
トンネルP
※時間はおおよそです
林道
道標
都留市
ゲート
道標
恩賜林自然看板
少し広い駐車可
今倉山登山道 入口
道路と駐車場見える
ゲート
林道
道坂トンネル
道志村
山みちマップ
どうしの山
作・画 K-CO 2017.2

# 協力隊だより 14

このページでは、地域おこし協力隊の活動を報告していきます。

## 2年目の準備

1月から3月にかけて、2年目の活動に使う資材や計画などを決め、準備をしていました。また、初めての子どもも誕生し、嬉しいやら、慣れない育児に戸惑ったりして、陽気も暖かい日が増えてくるやで、何かと忙しくしていました。

冬越し中の食用菊達です。次第に元気になってきました。
3月12日撮影

食用菊はハウスで年越しをし、薄いビニールで霜からも守られ、2月の日差しでちょっとずつ新芽を伸ばしている印象です。

協力隊も2年目を迎える年なので、実のある活動にできるように努力したいと思います。

（抱井昌史）

## 協力隊2年目に向けて

前回の協力隊だよりで紹介した大根のビール漬けを、道の駅で販売する予定でしたが、ビールを使っている為子供が食べても大丈夫なのか？等の理由で、残念ながら道の駅では販売する事が出来ませんでした。イベント等では、販売出来るので、その時は沢山作って販売したいと思います。

4月からの2年目は、農作業、ピクルス等の日持ちする加工品の開発販売、道志村の鹿や猪の革を使った革製品の開発販売を中心に活動していきます。

（鳥澤拡太）

## 春に向けて

どうも、七瀧です。3月になり、暖かくなってきました。

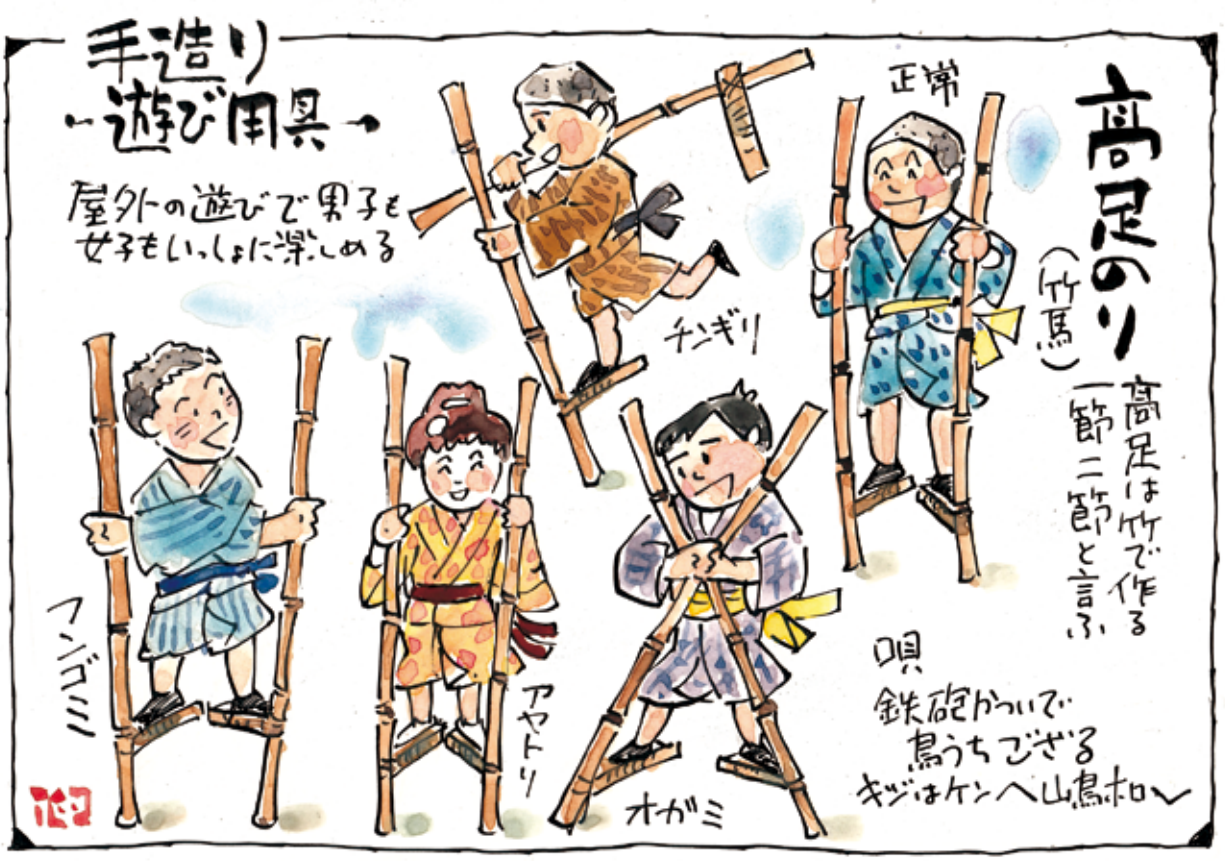
冬の間は水道管の凍結、破裂や畑での霜の影響などの失敗が多くありましたが、その分色々と学びも多かったような気がします。

春に向けては畑の整備や作物の苗作りを少しずつ始めています。

今年は苗作りに使えるビニールハウスがあるので去年より作業性良く進めていけそうです。

計画をたてて出来るだけ多くの仕事が出来るように頑張っていきたいと思っています。（七瀧佳至）

道志村観光協会の横を下ったところの畑を耕耘して作物を育てていきます

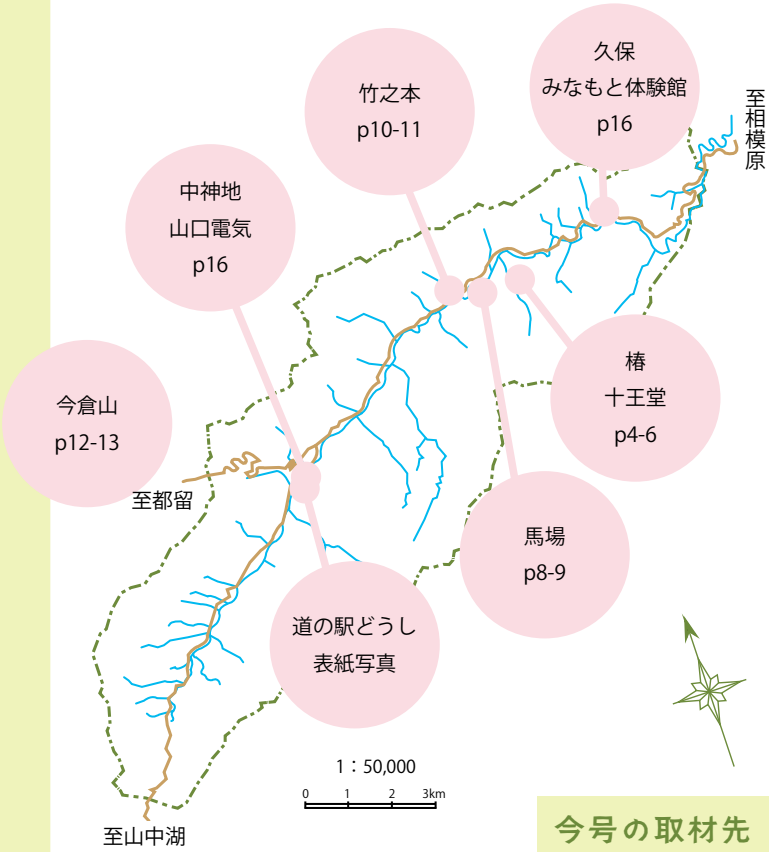



作画　仲井義晶

## 道志村へのアクセス

富士急行線 都留市駅から富士急バス 30 分
旭が丘（山中湖経由）から富士急バス 20 分

中央自動車道　相模湖 IC から 50 分（30km）
中央自動車道　都留 IC から 30 分（20km）
中央自動車道　河口湖 IC から 50 分（38km）
東名高速道路　御殿場 IC から 50 分（35km）
JR 横浜線橋本駅から 1 時間（40km）




今号の取材先

この冊子は平成 28 年度地域おこし協力隊活動事業費により作成しました。

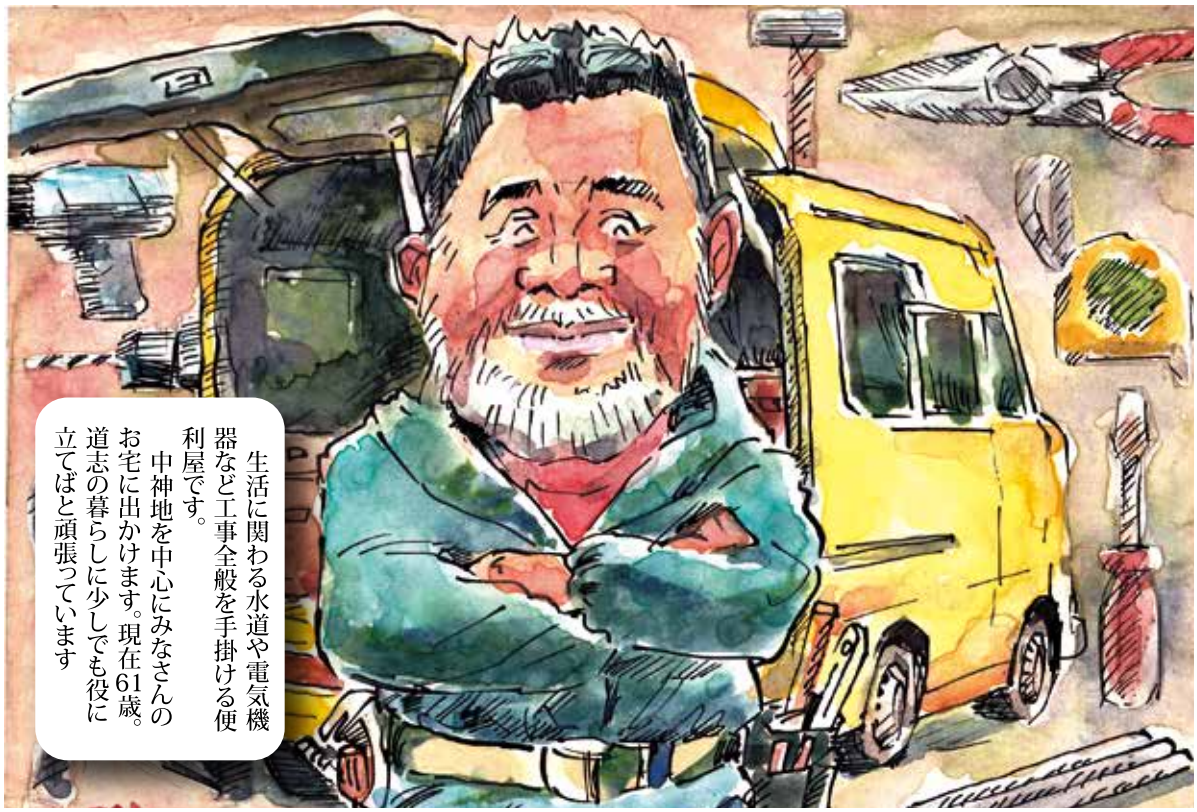
道志手帖【ドウシ・テ】no.15

発行日　2017 年 3 月 30 日　発行　道志村地域おこし協力隊　編集責任者　香西恵
〒 402-0209　山梨県南都留郡道志村 6181-5　道志村中央公民館 2F
TEL：0554-52-2118　ホームページ：http://www.doshi-te.jimdo.com

# お顔拝見

## (有)山口電気　山口久公(ひさみ)さん

作画　仲井義晶



生活に関わる水道や電気機器など工事全般を手掛ける便利屋です。
中神地を中心にみなさんのお宅に出かけます。現在61歳。道志の暮らしに少しでも役に立てばと頑張っています

## みなもと体験館イベント参加　ドキドキワクワク体験コーナー 4

憧れのスローフード体験、木工体験。道志村に移住してきた私にとって、みなもと体験館でのイベントは毎回未知の事でいっぱい！　私のドキドキ、ワクワクをこのコーナーで紹介します。

### バームクーヘン作り

みなもと体験館というと木工体験が出来るというイメージがあるが、実際には年間を通して様々なユニークな企画をしている。

今回は「バームクーヘン作り」を体験した。「バームクーヘン」の特徴といえば、あの年輪のような模様だ。

一般に販売されているものは、機械を使っているが、なんといっても、何でも手作りしてしまうのが、みなもと体験館！

生地の材料となるパンケーキミックスの粉、卵、バター、砂糖などをよく混ぜ合わせた後、竹に巻き付け、燃えている炭の上で、焼きつける作業を繰り返し、あの年輪の一層ずつを作り出していくのだ。

竹の両端を２人でそれぞれ持ち、生地が落ちないようにくるくる大急ぎで燃えている炭の上で竹を回す。

ある程度焼けたら一面ずつ焼き色を付けていく。

最初はなかなかうまくいかず、生地が燃えている炭に落下するも、一層ずつを根気よく焼く手順を繰り返していくうちに、良い年輪になっていく。

みなもと体験館のバームクーヘン作りのように、人生も手作りで丁寧に年輪を重ねていけたらと思う。

（佐藤八重子）

協力隊へのご意見や本誌のご感想をお聞かせください。
お気軽に左記の宛先へご連絡ください。